

2009 年度日本機械学会 展示会「日本の先端科学技術の紹介」について

2009 年度国立科学博物館展示実行委員会

今回、5 回目となる展示会「日本の先端科学技術の紹介」は、国立科学博物館のご協力をいただき、更には文部科学省、経済産業省のご後援を得て、昨年度に引き続き山川 宏 早稲田大学教授を実行委員長として、国立科学博物館の「科学と技術のあゆみ」常設展示場の一角を使用し「日本の先端科学技術コーナー」の紹介と位置づけ展示した。本展示会は、これまで本会が、機械工学と広く産業社会の発展を奨励することを目的に、機械工学における優れた論文や技術、社会的価値の高い優れた製品に対して毎年顕彰を行っている活動に関連し、次世代を担う子供達や研究者・技術者を目標として欲しい多くの若い人々にこの表彰を受けた技術・製品を紹介することで、日本が誇る「ものづくり」を広く啓蒙していくことを目的に実施している。

今年度もこの企図に沿うべく、前年度の機械学会賞(技術)、優秀製品賞、及び昨年までに認定した「機械遺産」31 件のパネルを掲示し、近代日本の歴史に残る機械技術と共に現代科学技術へと発展するに当たっての重要な成果を示した。来場者の方々は、最先端の技術を分かりやすく解説した受賞概要パネルや展示物を興味深く見学されていた。

本展示会は、本会が“機械”の意義や役割を広く社会と共に考え、人間と機械のふさわしい関係を構築するため、2006 年度に制定した機械の日、機械週間〔七夕「棚機（タナバタ）」の中暦にあたる 8 月 7 日を「機械の日」、8 月 1～7 日を「機械週間」(メカウィーク)と制定〕の一環として 7 月 28 日から 8 月 10 日まで開催した。

ほぼ 2 週間に亘る期間中の参加者は子供達の夏休みの時期でもあり、約 1 万名を数えるものとなった。

展示会初日 7 月 28 日には、国立科学博物館 北見 耕一 理事ならびに本会より勝田 正文 理事、山川 宏 実行委員長のご挨拶により、展示会を開会した。

また、当日は「環境と新エネルギーについて」勝田 正文 早稲田大学教授より、8 月 7 日の「機械の日」には大学院生及び大学生を中心に、エコラン・ロボット・ロケットについて来場の子供向けに 3 件の特別講演をいただいた。

なお、本展示会では期間中の来場者（幼稚園、小学生から中学 3 年生までを対象）に対して、七夕に因み、会場で科学の未来の夢を短冊に書いていただき、これを館内にかざり、「科学の未来の夢 たなばた たんざくコンテスト」として、企画・実施した。昨年度に引き続き多数の応募があり、実行委員会での厳正なる審査の結果、おりひめ賞、ひこぼし賞各 1 点を下記の方々へ贈呈した（副賞：天体望遠鏡）。

おりひめ賞：小川 千海さん（小学校 2 年生）

受賞作品：『家から出たゴミをねんりょうにしてうごく車ができますように。』

ひこぼし賞：岩崎 和樹 君（小学校 6 年生）

受賞作品：『磁石の力だけで飛べる飛行機や車を発明したい。』



(開会式：国立科学博物館 北見耕一理事)



(特別講演：早稲田大学教授 勝田正文氏)

また、本年も会員シニアの方々に展示会の説明を行うボランティアを募集し、9名の方のご協力を得た。

最後に、本展示会の開催にあたり、国立科学博物館をはじめ文部科学省、経済産業省、さらには機械学会賞（技術）、優秀製品賞受賞各社の皆様から多くのご支援をいただいたことに対してお礼を申し上げる次第である。 以上

展示会の様子



シニアボランティアによる説明



受賞社による説明

8月7日機械の日特別講演の様子



「『エコラン』について」
早稲田大学 大聖研究室
太田 康夫 殿
家坂 聡 殿



「ロボット創り、夢をかたちに」
芝浦工業大学工学部電子工学
科 浅野 喬之 殿
文化会 SRDC の皆さん



「飛べ！学生ロケット！」
東海大学
学生ロケットプロジェクト
学生代表 神保 明菜 殿

たなばた短冊コンテスト・機械遺産展示の様子



たなばた短冊コンテスト



機械遺産パネル展示